

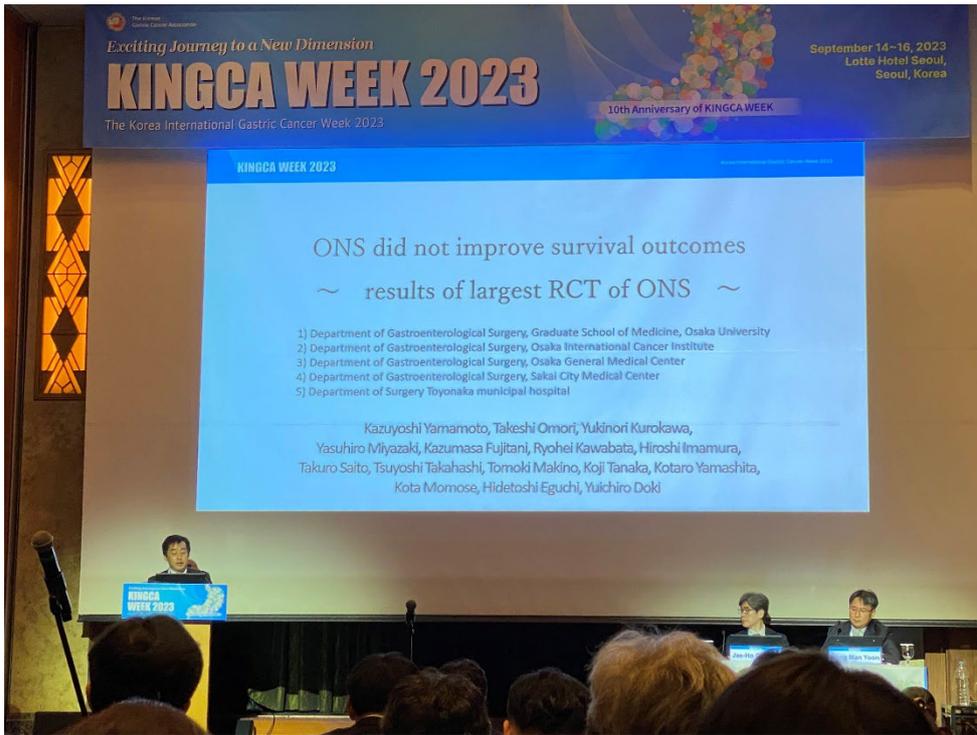
KINGCA WEEK 2023 参加記
大阪大学消化器外科 山本和義

2023年9月14日～16日 韓国ソウル Lotte Hotel Seoul で開催された KINGCA WEEK 2023 に参加して参りました。

私は2012年3月22日～24日 韓国南部の都市光州で開催された学会（当時はまだ Korean Gastric Cancer Association Meeting という名称でした）に参加させて頂いてから、2018年、2019年に続き、今回で4回目の参加となります。2012年の当時から、韓国のハイボリュウムセンター単施設から数千例のデータに基づく報告に圧倒されたものですが、以前と比べて感じたのは、韓国胃外科医が中心であった本学会が、内視鏡医、腫瘍内科医、コメディカルの参加が増え、発表内容が手術手技、手術成績だけでなく多岐に渡るようになったことです。

私は初日9月14日朝一番の Plenary Oral Presentation セッションで、大阪大学が関連施設とともに行った胃切除後患者に対するONS投与の多施設共同ランダム化比較試験の長期成績についての発表をしました。大規模な栄養に関するRCTは韓国でも実施されておらず、インパクトが大きかったのか、発表後も韓国の先生からたくさん質問をしてもらい、最終日には Best Oral Presentation Awards を頂くことができました。

たくさんのセッションがあるなかで、私が特に印象に残ったセッションは、2日目9月15日午前中に開催された KCLASS Session で、KCLASS から Min Chan Kim 先生、JCOG から寺島雅典先生、CLASS から Yihong Sun 先生、オランダ LOGICA グループから Arjen van der Veen 先生が登壇され、各グループの歴史とこれまでの Achievement の報告が印象的でした。術者のクオリティコントロール、RCTにおける群間のクロスオーバーなど、試験の質に関する熱い議論もあり、白熱したセッションとなりました。世界の様々なグループで今も新しいエビデンスを求め、臨床試験が行われています。各グループが相手をリスペクトし、統合解析含めインターグループでコラボしていくことが、世界の胃癌の治療成績向上のため、今後必要になってくると感じました。最後になりましたが、海外でこのような貴重な経験をさせて頂き、日本胃癌学会理事長 掛地吉弘先生はじめ日本胃癌学会関係者の方々、KINGCA WEEK 2023 関係者・事務局の方々に深く感謝申し上げます。



KINGCA Week 2023 発表の一コマ



2012 年韓国延世大学 Severance 病院留学時代からの親友 Dr Yoon Young Choi と